

みどり 水土里ネット富山だより

(富山の土地改良情報)

2024
第585号

1月1日発行



疏水フォーラムin常西用水2023 現地研修

上段左から：橋元調整工、新川合口幹線水路、新三井砂水門（赤川）
下段：左岸送水塔橋

CONTENTS

●新年のご挨拶

富山県土地改良事業団連合会新役員挨拶	中川 忍昭	1
全国水土里ネット会長	二階 俊博	2
全国水土里ネット会長会副会長 参議院議員	辻藤金 口子	3
全国水土里ネット会長会副会長 参議院議員	高崎 雅夫	4
富山県知事	新田 八朗	5
富山県議会議長	山本 徹	6
北陸農政局長	川合 邦文	7
富山県農林水産部長	津口 康彦	8
富山県農林水産部 参事・農村整備課長	松本 紘月	9
富山県農林水産部 農村振興課長	梶谷 祐二	10
●第46回全国土地改良人会 保井大会		11
●令和5年度「とやま水生活フォーラム」の開催		12
●疏水フォーラムin常西用水2023の開催		13
●国際競争力強化技術開発プロジェクトシンポジウム		14
●第7回「フック」とやま」むらびくり推進大会の開催		15
●北陸四県土地改良事業団体連合会協議会 中央委員		16
●北陸四県土地改良事業団体連合会協議会 北陸農政局長挨拶		17

●農業農村整備の未来	17
●令和5年度富山県換地センター換地計画実務研修会	18
●令和5年度北陸ブロック土地改良区水質強化対策 新規担当者研修	18
●令和5年度小水力発電所運用に係る点検報告 の現地視察会	19
●富山県行先改革農地整備推進協議会 先進地研修	21
●富山県多目的機能支援先進地研修会	21
●令和5年度換地関係協議会総務勉強会 (北陸ブロック)	22
●令和5年度総合整備推進研修(会計研修)	23
●令和5年度支農業用ため池管理保全研修会	23
●土木施工管理研修 富山8/7、新川8/22、砺波10/4	24
●氷見市土地改良区50周年記念式典	24
●宮腰川水発電所竣工式	25
●氷見市土地改良区 合併認可書交付式	25
●<情報>非営利農業基金整備資金のご案内	26
●<お知らせ>今後の主な行事予定	26



水土里ネット富山

(富山県土地改良事業団体連合会)





新年のごあいさつ

山口県土地改良事業団体連合会
(水十里ネット宮山)
会長職務代理者副会長

中川 忠 昭

新年明けましておめでとうございます。令和6年の新春を迎え、会員ならびに関係の皆様にご挨拶と新年のご挨拶を申し上げます。

皆様には、日々から農業農村整備の推進ならびに本会の業務運営に皆様のご支援とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことに伴い、ようやく農業農村整備や農村振興に関するイベントの開催など可能となりましたが、ウクライナとロシアに続いて中東でも紛争が起こるなど、引き続き国際的な不安を抱えながら新年を迎えることになりました。

県内においては、6、7月に県内各地で発生した豪雨により農地や農業用施設等への大きな被害が発生しました。あらためて、防災施設や体制の整備がいかに有効であり、重要であることを認識させられた一年でありました。いまだ復旧の半ばではありますが、被災された方々には心からお見舞いを申し上げます。

今回の災害に際しては、新田知事には、激甚災害の速やかな指定を求め内閣府、農水省に要請いただき、早々に激甚災害と指定されました。知事と国当局のご尽力に感謝申し上げます。

さて、農業農村を巡る時代の変化が著しい近年ですが、特に直近においては長期化する国際紛争などに起因して肥料価格や電力料金が高騰し、農家や土地改良区運営にとって困難な状況が抱えています。国の農政においてはしっかりとした食料安全保障対策を講じていくことが喫緊の課題となっております。

そのためには、立ちどころ農業の担い手不足と高齢化、生産性の向上に処処すべく、大型ほ場整備、汎用化への整備、老朽化した水路の更新などに加えてスマート農業に対応した生産基盤の整備を進め、農業の体質強化を図っていく必要があります。

農業生産基盤の充実と発展は、単に農業を守るためだけでなく、国民・県民全体の食料と自然環境を守るため、地道に、着実に、実施していかなければなりません。そのうえで万全に整備された農業基盤を活用し、多面的機能を最大限に発揮して意欲ある農業者がこれからも安心して農業に取り組める環境づくりを進めるとともに、私達の大切な郷土を守り、後世に繋げていくことが重要であると考えます。

昨年末にはこれらの施策を実行するための国予算が、令和5年度補正予算と令和6年度当初政府予算案を合わせて土地改良予算として6,240億円が確保される見直しとなりました。これも土地改良関係者が一致団結して活動した成果であり、心から御礼申し上げます。

県土遍では、県選出の国会議員はもちろん、われわれ土地改良の代表である財務大臣政務官の進藤金日子参議院議員と、元農林水産大臣政務官の宮崎雅夫参議院議員とともに力を合わせて農業農村整備事業の推進に取り組んで参りますので、皆さんの変わらぬご支援、ご協力をお願い申し上げます。

結びに、本年が皆様とご家族にとりまして希望に満ちた年となりますように心からご祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。



新年に当たって

全国水と土ネットワーク
会長 二階 俊博

令和6年の年頭に当たり、土地改良に携わる全国の皆様に、読んで新年の御祝詞を申し上げます。

昨年は、国内では新型コロナウイルス禍が一段落する一方、ロシアによるウクライナ侵略に加え、中東においても軍事衝突が起こるなど、国際的な混乱が続く年となりました。

国内においては、農業者の高齢化や減少が進み、農地や農業用水の管理に支障が生じているほか、資材価格と電力料金の高騰が土地改良区の運営を圧迫しています。

このような情勢の中、命を支える食料の確保は、後回しにできない国民ニーズであり、食料安全保障の強化は、国家の最重要課題とされ、食料・農業・農村基本法の見直しにおける大きなテーマとして議論されています。

我々は、食料安全保障の確立の観点からも、食料生産を支える農業生産基盤を維持し、国民の不安を解消していかなければなりません。

令和6年度農業農村整備事業関係予算につきましては、全国の関係者の皆様の熱意ある要請活動の結果、政府予算案において、4,463億円を確保することができました。令和5年度補正予算を含めると昨年度を上回る6,240億円となります。

御尽力いただいた関係各位に心から御礼を申し上げます。

他方、第5次男女共同参画基本計画や土地改良長期計画においても令和7年度までに土地改良区及び土地改良区連合の女性理事の割合を10%以上とすることが成果目標とされており、残された期間は2年余りとなります。

将来の土地改良組織の体制強化・発展のために女性の参画を積極的に進めていかなければなりません。皆様の御理解と御協力をお願いいたします。

私は、本会の会長に就任以来、「闘う土地改良」を旗印に組織一体となって闘ってまいりました。土地改良の代表として進藤会日参議院議員、宮崎雅夫参議院議員が「車の両輪」となって、皆さんの声を聞き、現場が直面している課題解決の処方箋を国の政策に反映させるよう奮闘しておられます。皆さんの声を国会に届けるためにも、お二人の活動の支援をお願いいたします。

「農業農村の振興」を果たすためには、限りなく闘い続けていかなければなりません。男女ともに一貫継続して、更なる闘いを続けていこうではありませんか。

輝かしい年の初めに当たり、本年も皆様の地域において更に農業・農村が活力を得て、一層発展しますよう御期待申し上げますとともに、様々な不安が払拭され、本年が全国の皆様にとって良き年であり、日々健やかに過ごされますよう御祈念申し上げます。私の新年の御挨拶といたします。



新年のご挨拶

財務大臣政務官
全国水士里ネット会長会策顧問
参議院議員 進 藤 金日子

新年、明けましておめでとうございます。常陸県土地改良事業団体連合会の会員の皆様には旧年中大変お世話になりました。昨年末、財務大臣政務官を拝命いたしました。引き続き、現場主義、地域主義に徹し、国家の発展と農業農村の振興のため全力を尽くしてまいります。本年もよろしくお願ひ致します。

土地改良予算については、昨年11月に成立した令和5年度補正予算で1,777億円が措置され、令和6年度当初予算政府原案の4,463億円と合わせて6,240億円となり、令和5年度予算よりも106億円上回る予算を確保しました。皆様のご支援に感謝申し上げます。

さて、今年の農政における大きな課題は、食料・農業・農村基本法の改正です。政府が昨年6月に決定した「食料・農業・農村政策の新たな展開方向」の具体的な施策の内容について、自民党では昨年9月から「農業基本政策」、「農地政策」、「食料産業政策」の3つの検討分科会を設置し、私も参加して少数のメンバーで議論を重ねました。昨年末には、検討結果を取りまとめ岸田総理へ提言を行い、「食料安全保障強化政策大綱」の改定に当たって提言内容が反映されました。この大綱が本年の通常国会に提出される食料・農業・農村基本法改正案や関連法案、予算制度につながってまいります。

提言は、「食料安全保障の抜本的な強化」、「環境と調和のとれた産業への転換」、「人口減少下における生産水準の維持・発展、地域コミュニティの維持」の観点から構成され、農地の確保、農業生産基盤整備と保全の推進等、今後進めるべき主要施策を具体的に提言しています。

私は、従来から我が国の食料供給力(食料自給力)の強化に当たっては、①農地・農業用水等の農業資源の機能の維持・向上を図る土地改良対策、②農業者を確保・育成する担い手対策、③農業技術の向上を図る試験・研究、普及・生産対策を別々でなくパッケージで早急に実施することが必要と訴えています。

「食料自給力」の最も基礎的なものが「農地・水等の農業資源」であり、農業者の激減が見込まれる中で農地と水を持っている機能を維持・増進する土地改良はこれまでも増して重要です。私は、本年も土地改良予算の安定的な確保、法律の整備や制度の拡充等土地改良事業の環境整備を行い、農業農村の振興に向けて邁進してまいります。皆様からのご指導とご鞭撻をお願ひ申し上げ、また、各連合会のご発展とご繁栄を祈念し、新年のご挨拶といたします。



新年あいさつ

全国水田ネットワーク会長会議顧問
参議院議員 宮崎 雅夫

輝かしい初春を迎え、富山県土地改良事業団体連合会の会員各位ならびに関係の皆様方へ新年のお慶びを申し上げます。

近年の異常な気象状況の中で昨年も、線状降水帯の発生など、梅雨前線の停滞に伴う被害や連続する台風被害などにより、広い範囲で台風、洪水の被害、土砂災害などが発生しました。また夏場の高温被害や、洪水による水源の枯渇など農業用水が安定供給されない事態もございました。被災された方々に心よりお見舞い申し上げますとともに、早期の復旧・復興に皆様とともに力を合わせて対応してまいりたいと考えております。

皆様方におかれましては、日頃より地域の重要な資源である水と土を守り、地域農業の発展や農村の活性化に向け、土地改良事業の円滑な推進、土地改良施設等の適切な管理並びに厳しい状況の中で土地改良区の運営にご尽力いただいておりますことに敬意を表しますとともに、旧年中は、私の活動に対し多大なるご支援とご指導を賜りましたことに衷心より感謝申し上げます。

さて、私も皆様方から多くのご支援をいただきながら、農林水産大臣政務官を勤めさせていただいた経験をもとに、特に昨年は、私が現場でお聞きした皆様の声を進藤金子議員とも連携しながら、国会等で発信し、皆様方からお受けした、たくさんのご要望等に対し、それぞれの地域の課題解決等に向け、全力で努力させていただきました。これらご要望を含め、昨年1月に成立した令和5年度補正予算では、農林水産関係で総額8,182億円、このうち、土地改良関係については、昨年第二次補正予算から100億円アップの1,777億円(食料安全保障強化対策100億円、総合的なTPP等関連対策760億円、防災・減災、国土強靱化857億円)を確保できました。この中には、皆様方から強いご要望があった土地改良施設にかかる巨額資金の調達に対し、増徴分の7割を又費する制度の継続も含まれています。また、令和6年度当初予算の概算額としては、前年を上回る4,463億円が計上され、総額6,240億円となる見込みとなりました。参議院予算委員会の理事として、これから行われる通常国会で、早期成立に向けて尽力していきます。

また、今通常国会では、4半世紀ぶりに「農政の憲法」とされる食料・農業・農村基本法の改正を行う予定ですが、カテゴリーベースで6割超を輸入に頼る我が国の食料事情にあって、食料安全保障のあり方や環境に配慮した農業・食品産業の推進、人口減少社会での食料供給基盤の転化についてしっかり議論を進め基本法に位置付けていく必要があります。さらに国内農産物の生産を支える農地や水利施設等の整備・維持という重要な役割を土地改良が担っており、農業従事者数の減少傾向に対応するスマート農業の取組推進や農業農村関係人口の拡大などを含めて、適切に施設の安全管理が図られるようしっかりと土地改良区の運営強化を推進していくことが重要です。

私も、昨年選任を迎えました。引き続き「食・土地改良・農山漁村は未来への礎」を理念に初心に立ち返り、これまでももろろ現場主義に徹し、現場や地域の課題をしっかりとお伺いして皆様のお声を国政に届け、必要な予算の確保と現場の実情に即した制度の充実に向け、誠心誠意努力してまいりたいと決意です。引き続きご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、富山県土地改良事業団体連合会ならびに会員各位、関係機関の皆様のご賛助と皆様のご信頼を心より祈念し、あけ私の新年の挨拶とさせていただきます。本年もよろしくお願い申し上げます。



「幸せ人口1000万」ウェルビーイング 先進地域を目指して

富山県知事 新田 八郎

明けましておめでとうございます。令和6年の新春を県民の皆様とともに過ごしたいと存じます。
令和2年11月の知事就任以来、「県民日報」、「スピード重視」、「現場主義」を大切にした県政運営に努め、県民の皆様にお約束している8つの重点政策・88の具体策の実現に向けた施策を、令和4年2月に策定した富山県成長戦略を推進する各種施策に誠心誠意取り組んでまいりました。

この間、新型コロナウイルスの感染拡大をはじめ、記録的な大雨や豪雨などの自然災害、鳥インフルエンザの発生、ツキノシグマによる甚大な人身被害の発生など、県民の命や暮らしに関わる重大な事案に見舞われました。現在も、長引くエネルギー価格や物価の高騰により、県民生活や事業活動には大きな影響が生じています。とりわけ、発生当初から新型コロナウイルスの感染拡大防止と社会経済活動の両立という困難な課題に直面しましたが、適時適切に、必要な対策を盛り込んだ予算を編成するなど、スピード感を持って対応してまいりました。原油価格や物価の高騰によって影響を受ける県民生活や事業活動への迅速な支援にも努めてまいりました。

引き続き、県民の皆様の命と暮らしを守ることを最優先に、必要な対策に取り組んでまいります。

また、新しい富山のさらなる発展に向けて、成長戦略に基づき、関係人口の拡大やスタートアップ支援など、富山県でぶらさず人も、訪れる人も幸せを実感できる「幸せ人口1000万」ウェルビーイング先進地域、富山の実現のための取組みを営業に進めてまいりました。今年公表した本県独自のウェルビーイング指標を政策形成プロセスに組み込み、世界的にも先進的な取組みにも挑戦しています。

昨年5月には、石川県と共催で「C7富山・金沢教育大同会合」が開催され、教育を通じて子どもたちのウェルビーイング向上を目指す「富山・金沢宣言」が採択されました。ウェルビーイングは、政府の骨太方針でも取り上げられたほか、先の臨時国会でも、国土閣僚懇談会が併行表明演説の中で言及されたところであり、これからウェルビーイングが日本中でますます広がっていくことを期待しています。

本年も、県民の皆様とランチ・ムとあって、県民の皆様が希望に満ちた、笑顔があふれる富山県、ワクワクすることがたくさんある富山県、チャンスがあり、夢を叶えることができる富山県の実現に向けて一層努力してまいります。

新年にあたり、県民の皆様の実現に対するご理解とご協力を改めて申し上げますとともに、皆様のご健勝、ご多幸を心からお祈り申し上げます。新年のごあいさつといたします。



新年を迎えて

富山県議会議長 山本 徹

新年明けましておめでとうございます。

令和6年の新春を、皆さまとともに寿ぎたいと存じます。

口頭から本県の農業・農村整備に多大なご尽力をいただき、深く感謝を申し上げます。

さて、我が国の社会経済環境は、少子高齢化の進行と人口減少時代の到来、地球温暖化をはじめとした環境・エネルギー問題、事件・事故や激甚化・頻発化する自然災害による社会不安の顕在化など大きく変化しております。昨年県内においては夏に記録的大雨による災害が発生し、世界においてはロシアによるウクライナ侵攻やパレスチナ問題など国際情勢がより緊迫化、さらには急激な円安進行など激動の1年でありました。

また、農業・農村を取り巻く環境は、担い手の高齢化や後継者不足、産地間競争の激化に加え、肥料・農薬・燃料価格の高騰が続き、農作物価格への適切な伝達ができず農業経営の収益性の悪化、さらに食糧安全保障への対応が求められるなど、多くの課題に直面しております。

こうしたことから、県では、本県の実情に即した政策が構築されるよう国に働きかけるとともに、生産、流通、加工、消費等の関係団体等と連携して、富貴富の生産拡大や効果的なPR活動による高品質のブランド力強化、県産農産物等の地産地消の推進と国内外への販路拡大、担い手への農地集積、園芸生産の拡大等による所得向上、ICT等を活用したスマート農業の推進や持続性の高い農業生産に取り組むエコファーマーの育成などに積極的に取り組むこととしております。

県議会といたしましても、必要な公共事業予算の確保や安心して農林水産業を営める環境づくり、そして農業を志す若者達が地域の担い手として活躍できるように積極的な政策を推進することにより本県農業・農村がより元気になるよう全力を尽くしてまいります。

皆さまにおかれましても、これまで培ってこられた優れたノウハウや技術力を活かし、個性豊かな魅力ある農業・農村づくりに向けて、一層のご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、新しい年が皆さまにとって希望に満ちた幸多い年となりますようお祈り申し上げます。新年のご挨拶といたします。



年頭のご挨拶

北陸農政局長 川 合 規 史

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

皆様方におかれましては、3月頃から農林水産行政、とりわけ農業農村整備事業の推進にご理解、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年は北陸農政局管内において、5月の龍登地方を震源とする地震、6月から7月にかけて発生した記録的な豪雨などにより各地で甚大な被害が発生しました。被災された皆様に改めてお見舞い申し上げますとともに、北陸農政局としても被害を受けた農地・農業用施設等の復旧・復興に向けて取り組んでまいりますので、ご協力の程お願いいたします。

また、例年になく高温・少雨の影響により農作物の品質低下や収量減少など農業経営に大きな影響が生じました。農政局でも、引き続き高温・少雨による農作物の品質や収量への影響等について、十分な把握に努めるとともに、高温対策栽培体系への転換について支援してまいります。

現在、農林水産省では、農政の基本理念や政策の方向性を示す「食料・農業・農村基本法」の見直しを進めています。基本法制定後の約20年で、世界的な食料情勢の変化に伴う食料安全保障上のリスクの高まりや気候変動、海外市場の拡大等、我が国の農業を取り巻く情勢が、制定時には想定されなかったレベルで変化していることを背景として、11年にわたる検証・見直しの議論を進めてまいりました。昨年9月には、食料・農業・農村政策審議会において、最終取りまとめが行われ、農林水産大臣あてに答申をいただきました。

食料安全保障をいかに確保していくかが大きなテーマとなる中、優良な農地の確保・有効利用、農業生産基盤の維持管理の効率化・高度化、土壌改良剤の運営体制の強化を図る必要があることなどが位置付けられています。

引き続き、本年の通常国会への基本法改正法案提出に向けて、農政の基本的な方針としてふさわしいものとなるよう準備を進めてまいります。

全国の農業農村整備事業関係予算に関しては、食料の安定供給の確保、農業の持続的な発展、農村の活性化、防災・減災、国土強靱化、災害復旧等の推進のため、まず昨年11月には、令和5年度補正予算として1,777億円。次いで、年末の令和6年度当初予算概算決定で4,163億円(対前年度比100.1%)を計上し、合わせて6,240億円を確保したところです。

加えて、男女共同参画については、令和7年度までに土壌改良区の女性地帯の割合を10%以上にするなどの成果目標が掲げられております。定例会におかれましては、これまでと同様に、土地改良区が行う女性理事登用に関する取組に対して、ご理解、ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

北陸農政局といたしましても、地域の皆様の声をよくお聞きしながら、確保された予算を基に、農業生産基盤の整備、土地改良区の体制強化に取り組みつつ、将来を見据えた農業・農村の構築に努めてまいります。

結びに、富山県土地改良事業団の皆さまのご発展、また関係者の皆様方のご健康をお祈り申し上げます。年頭のご挨拶といたします。



新年のごあいさつ

富山県農林水産部長 津 田 康 志

明けましておめでとうございます。

輝かしい新春を迎え、富山県土地改良事業団体連合会、土地改良区をはじめ関係の皆様方に謹んで新春のお慶びを申し上げます。

口頃から本県の農業農村盛況はもとより、農政の推進に格別のご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

さて、本県の農業・農村を取り巻く環境は、担い手の減少や高齢化、食生活をはじめとする人々の生活様式の変化、世界的なエネルギー価格・原材料価格の高騰、近年急増する自然災害への対応など、様々な課題に直面しています。

県では、これらの課題に対応するため、令和1年3月に策定した「富山県農業・農村振興計画」に基づき、持続可能な「競争力の高い農業」と「豊かで美しい農村」の実現を目指し、各種施策に取り組んでいます。具体的には、省力化や生産性向上を図るスマート農業の推進や、農地の大区画化・集約化などによる農業の競争力強化を進めるとともに、近年急増する自然災害からの復旧を支援するための取り組みも進めているところであります。

今年度の県庁予算では、豪雨災害に係る予算計上のほか、ロシアのウクライナ侵攻などに起因する電気代の高騰により、維持管理費の負担が増えている土地改良区を支援する制度を設けました。引き続き、様々な課題に直面する土地改良区の負担軽減に向けた取り組みを進めてまいります。

また、令和3年に国で審議決定された土地改良長期計画では、土地改良区に上乗る女性理事の割合の数値目標が設定されました。県でも、今年度に男女共同参画推進に向けた目標及び行財政方針を策定し、土地改良区の女性理事登用を支援してまいります。

さらに、毎年必要な土地改良事業関係予算の確保に努めており、令和5年度当初予算109.2億円に加え、令和5年度11月純正予算77億円を確保し、着実に事業を進めております。今後とも、国庫補助事業を積極的に活用し、事業推進を図ってまいります。

本年も、本県の基幹産業である農業を支え、意欲ある農業者が夢と希望を持ち安心して営農に取り組めるよう、県として、職員一同、心を一つに全力で取り組んでまいりますので、会員各位におかれても、引き続き、本県農政の推進に、より一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、土地改良関係団体の限りなきご発展と皆様方のご健勝、ご多幸を心からお祈り申しあげまして、新年のごあいさつといたします。



年頭ごあいさつ

高山県農林水産部

参事・農村整備課長 松本 紘明

令和6年の年頭にあたり、謹んで新春のお慶びを申し上げます。

土地改良関係の皆様方には、一頃から本県の農業農村の振興に格別のご尽力とご理解、ご協力を賜り、心から感謝を申し上げます。

農業農村を巡る環境としましては、ロシアによるウクライナ侵略を背景とした国際的な原材料・価格の上昇や円安の影響等によるエネルギー・食料価格の高騰などにより厳しさを増しています。

また、昨年度は豪雨災害に続いて、記録的な高温による農作物被害が発生しました。細やかな用水管理や、被災後の営農再開や災害査定など、関係者の皆様に重ねて感謝申し上げます。

本年は、農政の憲法ともいわれる食料・農業・農村基本法の改正が予定されております。おそらく、将来の農業農村に係る政策の方向性も徐々に明らかになっていくものと考えております。内容に注視しつつ、その流れに取残されないよう将来の社会構造や営農をイメージして取り組んでいくことが求められるのではないかと思っています。現在、農業農村整備事業の実施に際しては多くの地域で営農作物の導入などを前提に実施や検討が進められていると思いますが、人口減少が進む中、魅力的な産業として人材確保に取り組むことがこれらの取り組みと同等以上に必要になっていると思います。

今後も各種農業関係予算の投資に合意が得られる競争力があり収益性の高い農業を展開するためには、目標とする経営モデルを見据えた農地整備や水路整備などの基盤整備が、どのような作物をどのように栽培するにもスタートであり不可欠であると考えております。また、農村が地域住民に住みやすく、多様な人々にとって文化的で魅力的な地域であるために、デジタル技術などの時代に応じた環境整備も進め、双方向の人と物の流れが途切れることがないようにすることも重要であると考えております。

県としましては、土地改良事業に関わる多くの人の意見に耳を傾けながら、関係部局とも連携し、土地改良事業等を契機として農業農村の可能性を高め、幅広い世代に夢を持って意欲的に取り組んで頂けるよう、目標を持って土地改良事業等の実施に取り組んで参りたいと考えております。

どうか皆様方におかれは、他分野の社会インフラと異なり、農業農村の課題は関係者が考えて声にして取り組んでいかないと前進しない性格もございますので、一層のご支援、ご協力等をいただきますよう、心よりお願い申し上げます。

終わりに、土地改良関係団体のご発展と、皆様方の今後ますますのご健勝、ご多幸をお祈り申し上げます。年頭のごあいさつといたします。



新年のごあいさつ

岡山県農林水産部
農村振興課長 桶谷 祐二

令和5年の新たな年初めにあたり、謹んで新春のお慶びを申し上げます。皆様方には、工業から本県の農業・農村の振興や川排水路等基盤施設の適切な維持管理に多大なご尽力とご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことに伴い、農村振興に関するイベント等がようやく以前の姿に戻りつつあり、「フクワクとやまむらづくり推進大会」、「多面的機能支払推進研修会」、「とやま農泊推進ネットワーキング会議」、「6次産業化セミナー」、「なやマルシェ」等に多くの方に参加いただき誠に有難うございます。

また、令和5年7月の集中豪雨により、被害にあわれた方にお見舞い申し上げますとともに、農村における災害復旧に向け、懸命に頑張っておられる市町村等関係者や応援いただいた県職員に対して、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

さて、令和5年の干支は「卯」で、「脱兎の如し(非常にすばらしいこと)」という言葉のように、大胆かつスピード感をもって、各種農村振興・活性化支援事業等を取り組んできたところです。

中川・岡北域の表裏両面では、課題解決のために複数集落が連携し、肌域で支えあうむらづくりを支援する「農村RMOモデル形成支援事業」、集落で話し合い土地利用を検討する「最適土地利用総合対策事業」を実施し活性化を「指す」とともに、アシストスーツなどの活用による「軽労化実現」等も進めてきているところです。鳥獣害対策としては、市町村境界付近の捕獲強化を実施する「広域捕獲事業」や、採獲したイノシシ等の肉を「とやまジビエ」として消費拡大を目指しているところです。

新たに都市農林交流の取り組みとしては、初めての地域を支援する「中川・岡地域交流スタートアップ支援事業」、農作業・農村に滞在を希望する方と農作業労働者の受け入れを希望する地域とをマッチングする「とやまノーム(農務)ステイ事業」を開始したほか、サンドボックス予算(部の裁量による試行予算)の活用により、大学生などを「岡山県都市農村交流事業広報アンバサダー」に任命し、広報企画を提案いただいているところです。さらに、農泊ロゴマーク「のうはくん」を活用して各種フェアでとやま農泊の魅力をお県下一体となって情報発信し、農山漁村における関係人口の拡大を図ってまいります。

また、引き続き、日本型直接支払制度等により、農業生産活動や農機・水路等の維持保全に努めてまいります。農村女性・6次産業化関連では、「がんばる女性起業発展支援事業」等により、農産物の加工販売・新商品の開発など、女性グループ等の起業や発展へ支援を積極的に行うとともに、「6次産業化のとやま魅力発信事業」により、新商品の試やフェロ・アップなど実践的な支援を行い、6次産業化の推進を図ってまいります。

今後は、農村振興課だけに「格別推進」と言われますが、今年の干支である「辰」を活用し、農村地域の毎日が「嘉辰令月(めでたい)」「のこ」となるように、県民の真の幸せ「ウェルビーイング」の向上となるよう、農村振興の施策を進めていきたいと考えておりますので、引き続き、皆様方からのご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

最後に、土曜改良関係団体のご発展と皆様方のご健康、ご多幸をお祈り申し上げ、新年のご挨拶といたします。



第45回全国土地改良大会（福井大会）

令和5年10月11日(水)サンポート福井において、第45回全国土地改良大会福井大会が「『水千里』がある『幸福』がある『笑顔』がある～ふくいで語る土地改良の未来～」をテーマに、全国から4,000名余りの土地改良関係者が参加し開催されました。

式典は、開催県である福井県土地改良事業団体連合会の山崎正昭会長の挨拶で始まり、インフルエンザのため急遽欠席となった全国水上市ネットの二階俊博会長に代わり、義経首三副会長から主催者挨拶がありました。

その後、土地改良事業功績者表彰が行われ、農林水産大臣表彰6名をはじめ、農村振興局長表彰16名、全国土地改良事業団体連合会長表彰44名が表彰されました。

〔本県の受賞者〕

- ・農村振興局長表彰 室積市土地改良区 理事長 定司 俊 憲 氏
- ・会士連会長表彰 庄末川水土地改良区 理事長 朴 木 豊 昭 氏



令和5年度「とやま水土里フォーラム」の開催

宮城県、宮城県土地改良事業団体連合会が主催した「令和5年度とやま水土里フォーラム」が、令和5年10月20日(金)南砺市井沢総合文化センターにて、土地改良関係者、県・市町村、高校生約580人参加のもと開催されました。

主催者を代表して、横田美香副知事、中川忠昭県土地改良事業団体連合会会長・職務代理者副会長から講会の挨拶があり、続いて来賓の川合規史農林水産省北陸農政局長、安達孝彦富山県議会議員代理、田中幹夫南砺市長の祝辞がありました。



次に県知事表彰があり、土地改良施設の維持管理や、多面的機能の発揮のための活動に取組み、他の模範となる団体および個人に対して「とやま水土里賞」が横田副知事から受賞されました。受賞されたのは、次の2団体と2個人の方々です。おめでとうございます。

■団体

- ・ 営農地整備事業天神地区委員会（南砺市）
- ・ 統合戸久用水水利委員会（小矢部市）

■個人

- ・ 齋藤 秀樹 氏（宮山市）
- ・ 島 隆治 氏（黒部市）



続いて、とやま水土里賞の団体受賞者である、天神地区委員会(発表者:湯淺秀和 委員)と戸久川水利委員会(発表者:福江清徳 委員)から事例発表が行われました。次に基調講演に入り、三輪泰史氏(株)日本総合研究所創茶戦略エキスパート)が本フォーラムのテーマである「スマート農業で実現する次世代農業〜持続可能で儲かる農業」がポイントに〜」と題し講演されました。

農林水産省の食料・農業・農村政策審議会委員の他、内閣府・戦略的イノベーション創造プログラムのディレクター、や農付DX構想検討会座長などに務められています。また、「図解よくわかるスマー

水産業」「フ・マテック入門」「スマート農業」などの多くの書籍を発表されるとともに、「プライムユース」をはじめとする数々の琴線に打撃されるなど、多方面でご活躍されています。

講演後には、高校生から積極的な質問が出るなどスマート農業に関心を持っていることが伝わってきました。また、ステージでは県庁農村整備課員による「STOP?井水路事故!」の寸劇が盛り込まれました。



一方、館内ホワイエでは「とよま水土里賞受賞」、「農業農村整備事業推進の取り組み」や「スマート農業に関する紹介・実証成果」および「農業用水路の安全対策」におけるパネル展示をおこないました。また、会場・ロビーにおいて上空から見た土地改良施設等の紹介動画も放映しました。

午後からは現地研修として、200人を超える参加者が「JA砺波野スノーカー農業実施ほ場及び大規模園芸施設」「トレボ-株式会社」「コッパカーレ城端」「県営ほ場整備祖谷地区」の4箇所を雨の中、バスにて視察し全日程を終えました。



「排水フォーラムin常西用水2023」の開催

排水は、農業用水を運ぶ水路としての役割を果たすだけでなく、地域の生活用水や防災用水等として利用され、地域の歴史や文化を育んできており、農業者のみならず国民共有の貴重な財産となっています。一方で、近年は農業者の高齢化や都市化の進展に伴い、排水の維持管理が難しくなっています。

こうした中で、排水の役割を広く国民に周知し、将来に引き継いでいくことができるよう考える機会として、水士コネクト常西用水、全国水士生ネット、排水ネットワークが主催者となり「排水フォーラムin常西用水2023」が開催されました。10月30日の富山国際会議場で開催されたフォーラムには、全国から740人の関係者や一般の習客が参加し、講演やパネルディスカッションが行われました。

また、10月31日に開催された現地研修には、県内外から135人が参加し、横江頭首門や常西合口幹線水路などの土地改良施設を回りました。

《フォーラム》

◆基調講演

講師：農林水産省農村振興局整備部水資源課長 瀧川 拓哉 氏
演題：疏水をめぐる現況と対応

◆講演

講師：水土里ネット大狗岩事務所長（群馬県） 儀田 靖 氏
演題：都市化が進む地域における農業用水の維持管理について

◆水土里ネット常西用水の活動報告

発表者：水土里ネット常西用水事務所長 水谷 英二 氏

◆パネルディスカッション

テーマ：都市地域の疏水の保全管理を考える

コーディネーター：土曜大学グローバル教育センター教授 杉浦木希子 氏

パネラー：水土里ネット常西用水所長 中川 忠昭 氏

水土里ネット大狗岩事務所長（群馬県） 儀田 靖 氏

水土里ネット鹿沼事務所長（岩手県） 高橋 隆 氏

農林水産省農村振興局整備部水資源課長 瀧川 拓哉 氏



《現地研修》

＞横江頭首工＜左岸連絡水路橋＞常西水神社、常西合口幹線水路＜新庄排砂水門（赤門）

国際競争力強化技術開発プロジェクト シンポジウム 農地基盤のデジタル化によるスマート農業の機能強化技術の開発開催

農林機構農村工学研究部門では、令和3年度から令和5年度の3カ年、スマート農業の生産性向上や効率的な省資源化、農地基盤の維持管理の省力化等に貢献するためのプロジェクト研究を推進してきました。この成果について下記の内容にてシンポジウムを開催しました。

日 時：令和5年11月9日（木） 13：30～

会 場：とよまさんシップ福祉ホール

参加者：国、地方公共団体、農業者、土地改良区、民間企業、大学など 約100名

演 講 内 容	講 師
農地基盤のデジタルデータの活用促進に向けて	農研機構農村工学研究部門 グループ長 宮本輝仁
従来1/10以下の作図時間で作業可能な3次元モデル自動生成ソフトウェア	農研機構農村工学研究部門 二級研究員 松島健一
農地基盤の安全を見守るためのドローンを活用した農地基盤モニタリング	農研機構農村工学研究部門 二級研究員 栗田英治
施設管理業務を支援する写真・メモ共有Webアプリケーション	農研機構農村工学研究部門 主任研究員 川邊利平
シン・農地基盤整備事業に向けたデータサイクルの構築	農研機構農村工学研究部門 二級研究員 若杉亮介



第17回「ワクワクとやま」むらづくり推進大会の開催

宮城県主催による第17回「ワクワクとやま」むらづくり推進大会が、11月18日に宮城県民会館ホールにおいて、農業及び土地改良関係者等約600人が出席して開催されました。農業・農村の振興と多面的機能の発揮を図るため、多面的機能支払制度、中山間地域等直接支払制度、耕作放棄地対策や都市農山漁村交流を推進しており、これら取組の必要性や成果を県民の皆さんに広くお知らせするとともに、活動指導者の情報交換等を図るために開催されたものです。

横「美香副知事の挨拶のあと、来賓として川合規史北陸農政局長、奥野詠子県議会副議長、中川忠昭県土地改良事業団体連合会 会長職務代理者副会長の挨拶があり、引き続き今年度「農村振興・環境保全優良活動知事賞」の受賞6団体に副知事から賞状が贈られました。

優良活動受賞団体は、次の6団体です。
 ◇亶岐地域資源保存会(黒部市)◇黒部市農協(女性部)(黒部市)◇広亨環境活動組織(上市町)◇黒瀬谷青集落協定(宮山町)◇利次ぼたるの里(小矢野町)◇砺波市梅造町自治振興会(砺波市)

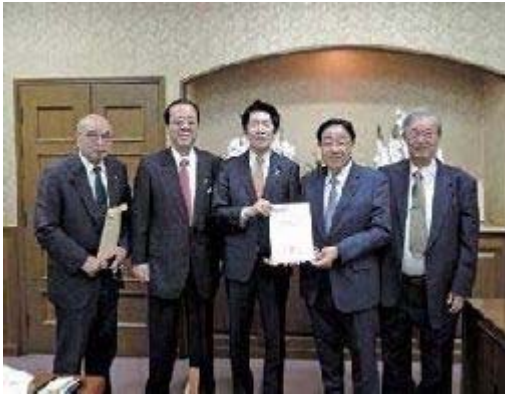
また、今回は、NPO法人「bunko」代表理事の「川玄洋氏を講師にお招きし、「楽しく巻き込む！若者の元気を活かしたむらづくり」について基調講演が行われました。その後、受賞団体うち4団体から活動内容について事例発表、宮城県産特産品の抽選会が行われました。最後に「ワクワクするむらづくり」に向けて総力を挙げて取り組むとの大会宣言が行われました。

北陸四県土地改良事業団体連合会協議会 中央要請

令和6年度の概算決定に向けて、北陸四県土地改良事業団体連合会協議会（管掌県：富山県）では北陸四県の各土地の会長、副会長、事務責任者が、令和5年10月25日～26日に東京都内にて、自民党本部と各県選出国会議員、財務省にて大野大臣ほか幹部職員、農林水産省では農林水産大臣ほか幹部職員に対して農業農村整備事業予算の確保を要請しました。

要請先

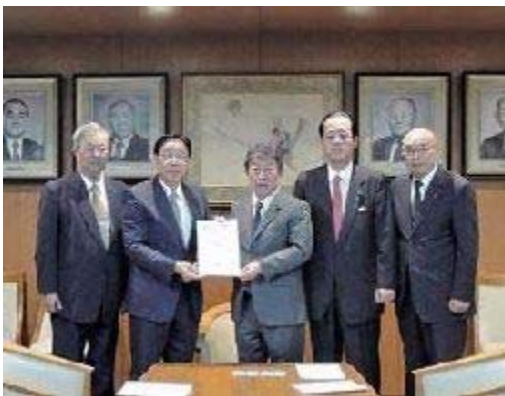
自民党本部、財務省、農林水産省、各県選出国会議員



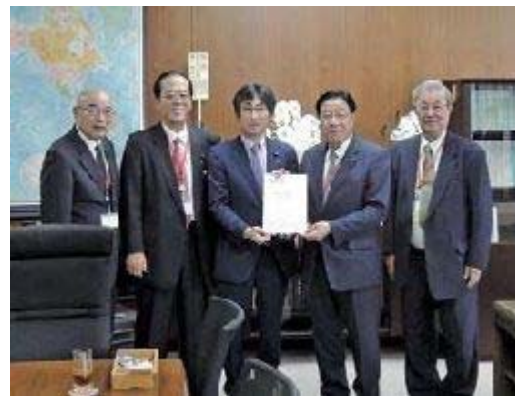
財務省 佐藤 啓 大臣政務官



財務省 漆戸有浩 主計官



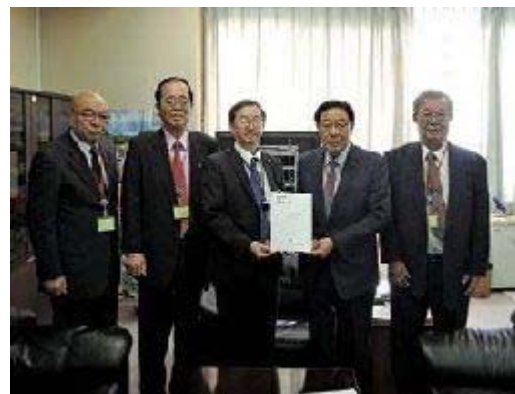
自民党本部 茂木敏久 幹事長



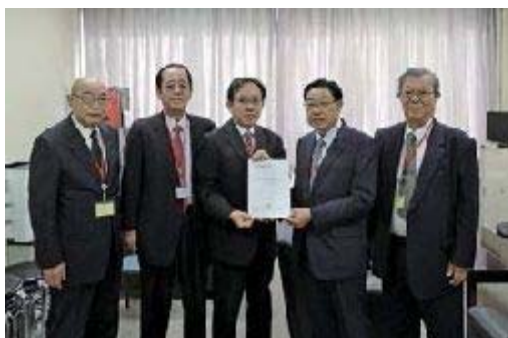
農林水産省 荻立昇治 大臣政務官



農林水産省 長井俊彦 農村振興局長



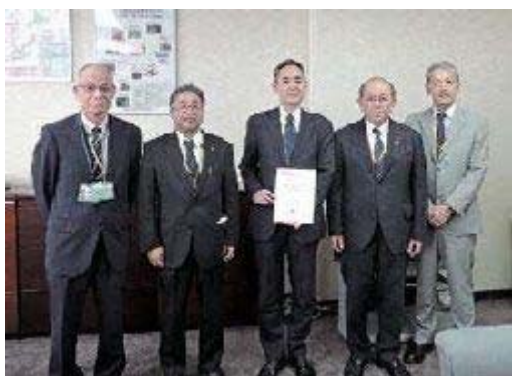
農林水産省 富山健治 農村振興局次長



農林水産省 緒方和之 農林振興局整備部長

北陸四県土地改良事業団体連合会協議会 北陸農政局要請

令和5年10月23日(月)、北陸四県土地改良事業団体連合会協議会は各連合会から事務印事並びに事務局長が出席し、川合規典北陸農政局長に農業農村整備事業推進に関する要請活動を行いました。その後、北陸農政局の農村振興部幹部との意見交換を行いました。



川合規典 北陸農政局長



北陸農政局農村振興部幹部との意見交換

農業農村整備の集い ―農を守り、地方を創る予算の確保に向けて―

令和5年11月7日(火)午後1時30分から、砂防会館「シェーンバウハ・サボア」にて農業農村整備の集いが開催されました。国会議員を含め約1,100名の土地改良関係者が参加しました。

始めに、辻藤金日子全国水田ネットワーク会長会議顧問から挨拶があり、その後多数の来賓の方々より祝辞がありました。

休憩を挟んだ冒険には、二階俊博全土連会長から、「既う土地改良」を続けていくために一致団結して努力していく必要があるとの挨拶がありました。

引き続き、令和6年度予算をはじめとした10項目の要請書が提案され、全会一致で採択されました。



全土土地改良事業団体連合会 二階会長

各種研修会

①令和5年度富山県換地センター換地計画実務研修会

富山県換地センターでは、換地技術者育成を目的として研修会を開催しています。

今回は、令和5年7月6日(木)富山県情報センターにて「令和5年度富山県換地センター換地計画実務研修会」を、換地士、土地改良区、県、県土直の担当者、計66名が出席して開催されました。

研修会は、まず浦田一郎換地士部会長、永森雅之富山県土地改良区業団体連合会専務理事の開会挨拶があった後、下記の内容にて研修を行いました。

講演内容	講師
換地理論について	北陸農政局 農村振興部 土地改良管営課 課長補佐 高森 正史
換地計画概用処分について (換地くんVer5)	富山県土地改良区業団体連合会 計画部 換地利巨課 係長 松戸 俊浩



②令和5年度 北陸ブロック 土地改良区体制強化事業 新規担当者研修

令和5年9月4日から9月6日にかけて、福井市の福井県国際交流会館において、令和5年度北陸ブロック土地改良区体制強化事業「新規担当者研修(当答県:福井県土地改良区業団体連合会)」が開催され、北陸四県の県、市町村、土地改良区及び県土直担当者約30名が参加しました。

研修は、野坂隆二福井県土地改良区業団体連合会専務理事の開催挨拶のあと、福井県、福井地方方法務局、北陸農政局、国土院、福井県土地改良区業団体連合会より講師を招いて、下記の内容で行われました。

時	研修内容	講師
9月4日	土地改良法の概要	北陸農政局農村振興部土地改良管理課 岡本孝徳・参事係長 北原 誠
	土地改良換地制度の概要	北陸農政局農村振興部土地改良管理課 課長 石川 聖弘
9月5日	付随登記について	福井地方方法務局登記部門 登記官 高橋 千晶
	不動産登記法及び土地改良登記令	福井地方方法務局登記部門 登記官 山村 尚吾
	公共測量の手続きについて	国土地理院 北陸地方測量部 測量課 調査係長 富山 顕
	河川法の概要	福井県土木部河川課 河川管理グループ 総括主任 飩 幸久
9月6日	道路法の概要	福井県土木部道路係全課 道路管理グループ 主任 中島 大輝
	農地法・震源法の概要	福井県農水産部中 間農業・畜産課 農地管理グループ 総括主任 近藤 雅彦
	換地計画書作成実務	福井県土地改良事業支援委員会 事業課 土地改良課 主任 清水 章史



③令和5年度 小水力発電所運用に係る点検整備の現地視察会

富山県農業用水小水力利用推進協議会は、令和5年10月18日、八尾発電所、空牧発電所、ユニオン産業株式会社 塚中工場 水力機械部において、「小水力発電所運用に係る点検整備の現地視察会」を開催し、会員21名が参加しました。

現地視察会では、土地改良区が管理・運用する農業用水塔を利用した小水力発電所について、今後の精密点検、オーバーホール等の大規模な点検・修繕における実施手法や留意点等についての研修が行われました。

〈八尾発電所諸元〉

- ・ダム水路式発電（八尾ダムより取水）
- ・立軸うず巻フランシス水車（2台）
- ・最大出力 8,100kW（2台計）
- ・最大使用水量 19.0L/s（2台計）
- ・最大有効落差 9.0m
- ・運転開始 昭和33年5月
- ・八尾ダム：逆調整池、灌漑用水給水



〈室牧発電所諸元〉

- ・ダム水路式発電（室牧ダムより取水）
- ・立軸うず巻フランシス水車
- ・最大出力 22,000kW
- ・最大使用水量 23.0m³/s
- ・最大有効落差 114.43m
- ・運転開始 昭和36年4月
- ・室牧ダム：多目的ダム（洪水調節、既得取水の安定化、発電）



（岡山県ウェブサイト引用）

八尾発電所



室牧発電所



ユニオン産業株式会社 姫中工場 水力機械部



④ 高山県構造改革農地整備推進協議会 先進地研修

高山県構造改革農地整備推進協議会(会長:齊藤高志 大門町土地改良区理事長)では、令和5年11月9日(木)～10日(金)に県内土地改良区関係者31人にて県営経営体育成基盤整備事業(面的集積型)「高野地区」・板倉取水環堤、上界かんがい施設遺産「上江川水路」、県営農地環境整備事業「坂口新田地区」にて先進地研修を行いました。

研修地である新潟県内の先進的な施設整備や営農への取り組み、高収益作物の栽培、スマート農業への状況を研修しました。



高野地区 現地視察



上江川水路 現地概要説明



坂口新田地区 概要説明

⑤ 高山県多面的機能推進協議会 多面的機能支払推進研修会

高山県多面的機能推進協議会では多面的機能支払交付金の活動の活性化・継続性の確保を目的としております。令和5年10月18日に富山産業展示館(テクノホール)において、「多面的機能支払推進研修会」を開催したところ、活動組織、関係機関などから930人が参加しました。

研修会では講演及びパネルディスカッションのほか、多面的活動に必要な資材や機械、事務支援ツールなどの企業・団体ブース展示を行い、県内の活動組織における広報単列のポスター展示が行われました。

講演① 「多面的機能支払交付金の概要～施策の評価に向けて～」

講師：農林水産省 農村振興局 整備部 農地資源課 多面的機能支払推進室

調整係長 飯野 伸 氏

講演② 「多面的機能支払交付金における活動組織の広域化について」

講師：福井県多面的機能推進協議会 柘原 一男 氏

パネルディスカッション 「県内の多面的機能支払の取組状況について」

コーディネーター：富山大学 名誉教授 酒井 宣夫 氏

パネラー：飯野 伸 氏

柘原 一男 氏

農林振興センター 課長 4名



講演①



講演②



パネルディスカッション



ブース展示

⑥令和5年度換地関係異議紛争処理実務研修会(北陸ブロック)

換地関係異議紛争処理実務研修会(主催:国土連、開催県:新潟県上越)が令和5年11月21日～22日、新潟市内において農村振興局・北陸農政局・国土連・北陸4県の県・県上連の換地担当者が出席して開催されました。

挨拶の後、農村振興局土地改良企画課の谷川企画官から「換地を取り巻く状況について」と題して中央情勢について報告が行われました。引き続き富山県・石川県の換地関係異議紛争処理事例に基づくケース・スタディの検討会が行われました。テーマはそれぞれ、「元換地委員長でありながら身勝手な行為を咎められ事業反対者へと転身した者の対応事例」、「当初、事業に賛成していた権利者が事業反対に陥り、地区内農地を取得したことにより、やむなく計画変更を行い、当該農地等を地区除外して処理した事例」について、活発な意見交換及び総括が行われました。翌日は、北海道土地改良事業体連合会から「国営農地再編整備事業において、予防司法支援制度を活用し、法務局が予納金を含めた付川負担及び相続財産管理人手続を行い、相続人不在の土地を売却した事例」について説明があり検討会が行われました。最後に、国土換地センターから「換地技術者の年齢構成等の実態について」等の説明が行われ全日程を終えました。



⑦令和5年度統合整備推進研修(会計研修)

令和5年11月30日(水)富山県総合体育センターにおいて、「令和5年度統合整備推進研修(会計研修)」が開催され、県土地改良区の役員、県職員など56名が参加しました。

この研修会は、全国水士里ネット主催で全都道府県において開催される研修会で、土地改良区における貸借対照表の作成が義務化されたことをうけて、複式簿記への円滑な移行を図るため、導入に関する実務的知識を習得することを目的として開催されています。

主な研修内容

1. 財務諸表等の作成手続き
2. 会計処理事例紹介
3. 財務諸表等を活用した財務分析の方法



⑧令和5年度農業用ため池管理保全研修会

令和5年10月4日、富山県土地改良会館において、農業用ため池の監視・管理体制を強化することを目的に「令和5年度 農業用ため池管理保全研修会」が開催されました。県、市町村、土地改良区の担当者及びため池管理者41名が出席し、下記の内容にて研修が行われました。

講義内容	講師
5月～7月豪雨によるため池の被災事例について	富山県農村整備課 上田主任
堤体に繁殖する大型雑草の生態を考慮した除草対策	NPO法人 緑地雑草化学研究所 雑草インストラクター 徳田 有美 氏
土地改良区と地域が連携した農業用ため池の管理事例	呉羽射水山ろく用水土地改良区 杉谷事務局長



⑨土木施工管理研修

令和5年8月7日(月)、8月22日(火)、10月4日(水)に富山、新川、砺波管内において富山県土地改良事業団体連合会及び管内土地改良区の職員を対象とした土木施工管理研修が行われました。各管内の農林振興センター・農村整備課の職員の方に講師をしていただき、座学研修では工事の概要について、現場研修では土木施工管理について受講しました。

富山管内では基盤整地の施工管理、新川管内では表土右平と自動給水栓の施工管理、砺波管内では洪水調整池の施工管理について学びました。



浜島崎地区（富山管内）



出鳥地区（新川管内）



庄川左岸地区（砺波管内）

式典

氷見市土地改良区設立50周年記念式典

令和5年6月29日(木)、氷見市芸術文化会館において、氷見市土地改良区設立50周年記念式典が、常設茨富山県土地改良事業団体連合会長、津田康志富山県農林水産部長、内田聖寿北陸農政局次長、林正之氷見市長、萩原隆次氷見市議会議長ほか来賓や土地改良区の関係者約140人が出席し盛大に行われました。



宮腰用水発電所竣工式

令和元年度に地域用水環境整備事業で着手した久婦須川地区において、小水力発電所の竣工式が下記のとおりにおこなわれました。

	年月日	取 内	最大出力 (kW)	売電開始	事業主体
宮腰用水発電所 (久婦須川地区)	令和5年 7月14日	富山市八尾町 宮腰地内	124	令和5年 4月3日	久婦須川土地改良区



水見市土地改良区 合併認可書交付式

水見市土地改良区(理事長 江添良春)と水見市宇波土地改良区(理事長 坂本菊男)の2土地改良区が合併し、令和5年10月31日高岡テクノドーム会議室Aにおいて、合併認可書の交付式が行われました。

交付式には、江添水見市土地改良区理事長、坂本水見市宇波土地改良区理事長、浜本水見市建設部参事、井上高岡農林振興センター 所長、紫藤富山市土地改良事業団体連合会総務部長のほか県、市、土地改良区の関係者が出席し、井上高岡農林振興センター 所長から江添理事長に合併認可書が交付されました。

新しい時代に対応する土地改良区の経営基盤の強化と運営の合理化を目指して、令和3年から統合に向けて務績を進め、受託面積2,912ha、組合員6,051名による組織運営体制がスタートしました。

今回の合併で県内の土地改良区は63組織となりました。



情 報

◆非補助農業基盤整備資金のご案内◆

1. 非補助農業基盤整備資金とは

土地改良区等が国からの補助を受けないで、かんがい排水やほ場整備、客土などの事業に取り組み、農業生産基盤整備・保全の推進を図る場合、日本政策金融公庫等が農家負担の軽減を目的に、土地改良区等に対し低利で融資する資金です。国の補助対象でない県又は市町村単独による補助事業についても、融資の対象となります。

2. 対象となる事業種類・内容

かんがい排水、畑地かんがい、ほ場整備、暗渠排水、客土、農道、索道(索道等運搬施設を含む)、畦畔整備、農地造成、防災・農地保全、農業集落排水(農村下水道)、発電施設。

維持管理計画作成に係る調査費、土地改良区事務所の新築費、事務機器や複式簿記導入に係るシステム、車両など。

3. 融資条件

●貸付対象者

土地改良区、土地改良区連合(事業主体となる場合に限る)、農業協同組合、農業協同組合連合会、農業を営む方、農業振興法人

●償還期間 25年以内(うち据置期間10年以内)

【農業農村整備資金利率】

事業種別	又 分		R. 9. 12. 18現在
	興 営	ド 休 営	
補助事業			1.25 %
非補助事業			1.10 %
			1.10 %

(お問い合わせ先)

- ・富山県農林水産部農村整備課土地改良企画係 076-444-3375
- ・北陸農政局農村振興部土地改良管理課 076-263-2161 (代表)
- ・富山県土地改良事業関係連合会事業部農村整備第二課 076-424-3380

(融資担当機関)

- ・日本政策金融公庫富山支店 076-441-8411
- ・農林中央金庫富山支店 076-445-2508 (公庫受託課)

お 知 ら せ

●今後の主な行事予定(令和6年1月～6月)●

月日	会 議 と 行 事	場 所	参加対象	備考
2月7日	富山県担い手育成農業整備研修会 主催 富山県総合改革農地整備推進協議会	新川文化ホール	関係者	
2月16日	とやまの農山村写真展表彰式	富山県民会館	関係者	
3月21日	本会 第66回運営総会	ホテルグランワラス富山	会員・来賓等	主催

(注) 本案はあくまでも予定であり、別途詳細案内等を掲載のうえ参加ください。

令和5年度「とやま水土里賞（知事賞）」受賞者の紹介

団体の部



元富農地整備事業 入件地区委員会（白山市）
地元景観によるにんじん収穫体験



統合戸久用水利委員会（小浜市）
山腹水路の点検状況

個人の部



齋藤 秀樹氏（高山市）
成子取水門
水門の操作状況



高 隆治氏（黒部市）
下高巧川取水口水門
水門の操作状況



農業農村整備事業等の調査・測量設計等業務に関する
ご相談は、下記までお問い合わせください

富山県土地改良事業団体連合会

〒939-8214 富山市黒崎17番地
TEL076-424-3300 FAX076-424-3332
<https://www.tym-midori.net/tomidoren>

